



JICA ルサカ郡1次レベル病院運営管理能力強化プロジェクト



写真：2022年5月4日にパモジホテルで開催された医療機器ワークショップに参加した5つの対象病院、郡保健局、州保健局の参加者

**JICAプロジェクトは
医療機器管理ワー
クショップを開催**

**プロジェクトは、ル
サカ州保健局が行
った新型コロナワク
チンキャンペーンを
支援**

フォト・フォーカス

**コロナワクチン接
種後、笑顔をみせ
るリンダの住民**

**亡き友へ
我がスタッフMr
Siangomaへの哀
悼の意を表します**



JICAプロジェクトは 医療機器管理ワークショップを開催

医療機器は、質の高い医療サービスを提供するために重要であり、各施設はその経費を抑制するために資産を管理する必要があります。また、医療機器には寿命があり、その寿命を最大限に生かすためには、使用者が正しく使用し、管理することが重要です。



パモジホテルで開催した医療機器ワークショップを円滑に運営した Clinical care SpecialistであるDr. Msiska

医療機器管理とは、医療機器の運用管理、利用状況や安全性の分析・改善、医療技術のサポートなどを行う専門家集団のことを指します。

医療機器の一生は、調達計画、受入検査、施設での据付から始まります。このプロセスにより、各施設は機器の開発、監視、管理を行い、安全で効果的かつ経済的な機器の使用とメンテナンスを促進することができます。病院運営管理では、責任ある各医療施設は、医療機器がメーカーのガイドラインに従って適切に使用され、安全で清潔な環境で維持され、医療機器の寿命が尽きたら適切に廃棄されるように各医療施設が責任を持っており、定期的なメンテナンスの内容を確認できる作業システムを持つことが要求されています。

チャワマ、チレンジェ、チパタ、カニヤマ、マテロの5つの総合病院の場合、機器の監視とメンテナンスは臨床工学技士(BME, Biomedical engineer)の責任です。機器の信頼性は使えば使うほど低下し、施設にとっては維持費がかかり、患者にとっては安全でなくなるため、臨床工学技士はユーザー(看護師等の医療従事者)に機器の状態をアドバイスする必要があります。各病院からは、人材面からセキュリティ面まで、医療機器管理の現状が説明されました。特に目立ったのは、多くの病院が既存の医療機器管理委員会に課題を抱えていることです。また、チパタでは、医療機器管理の作業スペースが無く、現在のスペースでは効率的な作業をサポートできないとのことでした。報告に関しては、カニヤマ病院のMbewe院長が臨床工学技士の現在の報告システムに懸念を表明しましたが、DHOは、総合病院の臨床工学技士は、州保健局に直接報告する

ことになっているものの、サブディストリクトに関する報告は郡保健局に行っている実態を追加で報告しました。ところが、この議論の中でスタッフ不足のため、このシステムは困難であることが判明しました。PHOのDr.Msiskaは、保健省が現在行っている医療専門家の採用プロセスにより、より多くのスタッフが採用されることを臨床工学技士に約束しました。

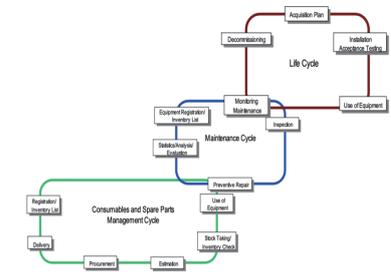
プロジェクトのチーフアドバイザーである法月医師を通じて、現在のシステムを改善し、より充実した医療サービスを提供できるようにするためのプロジェクトの計画が進行中であることを参加者に伝えました。5つの総合病院すべてにノートパソコンを調達し、臨床工学技士が病院内のすべての機器の記録管理を行えるようにすることをワークショップで発表しました。プロジェクトが電子データベース管理システムを導入するかどうかという質問に対して、チーフアドバイザーは、今のところ、臨床工学技士はエクセルを使わなければならないが、プロジェクトはその件に関して議論する用意があると述べました。

最後に、プロジェクトチーフアドバイザーが、対象病院すべてで5Sとカイゼン活動を実施するというプロジェクトの計画をワークショップで紹介しました。彼は参加者に、スペースやスタッフの問題は、適切な計画手法によって解決できることがあるため、プロジェクトはザンビアのKaizen Institute Zambiaと契約し、対象となる5つの病院すべてで一連のトレーニングを実施することを決定したと話しました。このプロジェクトの本質は、対象病院が自立できるように支援することであり、プロジェクトが終了しても、病院は自分たちで経営できるようになり、その後、保健省が同様のことを全国的に実施できるようになることなのです。



JICAザンビア事務所の保健チームがワークショップを聴講

Combination of 3 Cycles



保健省のマニュアルに掲載された医療機器のサイクル



ワークショップで議論するマテロ総合病院のDr. Liyuma院長とそのチーム



ルサカ郡保健局医療機器コーディネーターのMr. Obed Samusiko

プロジェクトは、ルサカ州保健局が行った新型コロナワクチンキャンペーンを支援

2022年5月14日、ルサカ州保健局は、2022年6月30日までにザンビアの対象人口の70%にワクチンを接種し、Covid-19に対する群衆免疫を獲得するという目標達成のため、全国Covid-19ワクチン接種キャンペーンに参画しました。

Covid-19を含む感染予防と管理は、プロジェクトの目標にある活動2であることから、プロジェクトがCOVID-19ワクチンキャンペーンに参加することは、IPCに関する今後の活動をより良く理解し、実施するために重要なことです。プロジェクトはカニヤマ地区担当のルサカ州保健局チームとリンダクリニックで合流し、ワクチンキャンペーンを支援するため、同地区担当のLPHOチームにプロジェクト車両を貸与しました。保健省は、チャールズ・ミルビ保健大臣代理を通じて、キャンペーンを可能にするために、様々なリソースを提供してくれた様々な支援パートナーに感謝しました。ルサカ州では、対象人口1,924,856人のうち、ルサカ州は2022年5月31日までに646,154人のワクチンを接種し、接種率は33.6%であると述べました。また、医療従事者の献身的な努力に感謝しました。キャンペーンはさらに2022年5月30日まで延長されました。



リンダ・グラウンドでCOVID-19の予防接種を受ける人々に呼びかけるコミュニティ・ボランティアとそれを見守る法月チーフアドバイザー



編集・デザイン: Mutuna Musonda

編集長: 法月正太郎

連絡先

法月正太郎 ルサカ郡病院運営管理能力強化
プロジェクト チーフアドバイザー

住所: Plot No.11743A, Brenwood Lane,
Longacres. P.o. Box 30027, Lusaka, 10101,
ZAMBIA

E-mail: cassiopeia.project.zm@gmail.com

Website: <https://www.jica.go.jp/project/english/zambia/023/index.html>

ルサカのリンダ・グラウンドでワクチン接種を受け、喜ぶ若い母親

亡き友へ 我がスタッフMr Siangomaへの哀悼の意を表します 2022年6月2日

